

取材のため各地区の乳幼児学級を訪ねると、それぞれ地域に合ったやり方で工夫されているのを感じます。今回は福岡乳幼児学級と阿木乳幼児学級におじゃましました。

地域の方の協力

福岡乳幼児学級では、ハロウィンの季節に仮装をして近くの神社まで散歩に行きます。毎年親子が通る時間に社協の方々がわざわざ外に出て見送ってくれます。この日も、仮装をした子どもたちに「かわいいね」と声をかけ、手を振って見送ってくれました。担当者の依頼を快く受けてくださった社協のみなさんの対応に、お母さんも子どもたちも温かい眼差しを肌で感じられたことでしょう。地域の方に関わってもらえるような機会があれば、子育てをまわりの人が見守ってくれていると感じられ、より一層心強いで

すね。



おしゃべりしながら神社まで
お散歩

子どもの思いを受け取る

神社に着いてひと休みしている時、小さな子が一生懸命「あつ、あつ」とお母さんのマスクを取ろうとしていました。最初はどうしたのかと戸惑っていたお母さんも、子どもが飲み物を分けてくれるつもりだと気づき、笑顔になりました。「やさしいね」。ありがとうと応えると、子どもも満足そうに「ニッコリ」。

小さいながらも、お母さんへの思いやりをみせた子。それに笑顔で応えてくれたお母さん。何気ないやりとりでしたが、

この積み重ねで、子どもの思いやりの心が育っていくのかなと感じる一場面でした。
みんなの中のわたし♪

この神社の正面は階段だけだったので、ベビーカーは登れません。赤ちゃん連れのお母さんが回り道をして、ベビーカーを押しながら遅れて境内にはいつてきました。すると、一緒に回り道をして来たお姉ちゃんが「みんな、遅れてごめんね」と大きな声で呼びかけたのです。

乳幼児学級もいろんな人が集まった小さな社会です。他の親子と関わり、友だちと遊んだり、他のお母さんに声をかけてもらったりしながら過ごすうちに、この子には仲間の中にいる自分を感じる事ができるようになったのでしよう。みんなと一緒に行動しているという意識がちゃんと芽生えています。親子だけの世界から、もう少し広い世界へ。乳幼児学級はそんな場にもなります。

日本の文化に親しむ

阿木乳幼児学級では、12月の学級でしめ縄飾りを作りました。

しめ縄という日本の文化を新しい感覚で取り入れ、従来のしめ縄に加えカラフルなしめ縄も使って、稲穂や水引、自然の草花やフルーツをドライ加工したものをなどを自由に組み合わせ、すてきなしめ縄飾りができあがりました。

地域の方の協力

11月の講師は、子どもに関わる活動をしてみえる地域の方で、しめ縄飾りのアドバイスをしながら、お母さんたちのなかにはいって、みんなに声をかけてくださっていました。世間話をしながら、また子どものお話をしながら和気あいあいと楽しそうに作業するお母さんたち。それをそばで見ている子どももいけば、自由に遊んでいる子もいます。お母さんから離れて遊んでいる子は、サポーターさんがゆったりと見守っていてくれます。



講師でもあり、よき相談相手でもある
地域の先輩

みんなで見守る

赤ちゃんが生まれて少しお休みされていたのか、ひとりの男の子がお母さんの足元にくっついて離れません。

「本を見に行こうよ」とお母さんをひっぱる様子を見て、その子の好みの絵本を探してくれたサポーターさん。すでに男の子の気持ちもほぐれ、お母さんから離れて絵本に夢中に。そのうち本を持って、自分の好きなペーシを他のお母さんに見せに行くようになりました。「どれどれ」と他のお母さんたちもそれに笑顔で応えてくれます。みんなに声をかけてもらい、帰る時にはすっかり元気にな

っていました。

直接会って感じる

感染症の影響で集まることが難しくなり、人と人とのやりとりも間接的なものが多くなってきたいました。オンラインでも会話ができ、顔も見られるので便利ではありますが、直接会えるようになることや違いを改めて感じます。

直接会えると、深く関わられる気がします。それは、相手の表情や声の調子、ちょっとしたしぐさなどの微妙な情報や、その場の温度のようなものまで、五感を使って感じられるからだと思います。人の温かい気持ちもよりストレートに感じる事ができます。

まわりの人と豊かな関わりができる力は、幸せな暮らしに欠かせません。子どもと一緒に通う乳幼児学級で、出会う親子、職員、そして地域の方などこのよりよいコミュニケーションを、親も子どもも学んでいきましょう。